

競技注意事項

1 競技規則について

本競技会は、2022年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則並びに本競技会申し合わせ事項により実施する。

2 新型コロナウイルスの感染拡大防止について

- (1) 競技者及びコーチなどチーム関係者は、体温・体調記録アプリケーション「GLOBAL SAFETY」を用いた体調管理記録を行うこと。(アプリケーションは、鹿児島陸上競技協会ホームページからダウンロードする。)
- (2) 当日検温で37.5℃以上の場合、参加を認めない場合がある。
- (3) 競技者は、招集所および競技エリアへの移動中はマスクを着用すること。競技エリアに到着後はマスクを外してもよい。
- (4) 休憩待機所、練習場・招集所等については競技役員の指示に従い、身体的距離を十分に確保すること。
- (5) 飛沫拡散を防ぐ為、集団での応援や近距離での会話を避けること。
- (6) 競技会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者(鹿児島陸上競技協会)に報告すること。(大会期間中及び終了後2週間は体温・体調記録アプリケーション「GLOBAL SAFETY」を活用する。)

3 招集について

- (1) 招集所は、陸上競技場第3ゲート付近に設ける。
- (2) 招集時間は、開始・完了ともに、競技順序に記載された時刻で行う。
- (3) 招集手順
 - ①競技者は競技順序に示した招集開始時刻に招集所に集合し、その際、審判員の指示によりアスリートビブス・競技用靴・衣類・持ち物等の点検を受け(日本陸連競技会における広告および展示物に関する規定に準ずる)、レーンナンバーカードを受け取る。規定に合わない衣類・持ち物を持ち込む場合は、招集所入り口に置いてあるテープで、各自でマスクングすること。
 - ②電子・通信機器(スマートフォン・タブレット・ビデオカメラ・トランシーバー・通信機能を持つ腕時計もしくは類似の機器等)は競技場内に持ち込むことができない。招集所や競技場所でこれらの持ち込みが明らかになった場合は、主催者で預かり、競技終了後に返却する。(TR6.3に該当)
 - ③招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ④代理人による招集の最終確認は原則として認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻前までに2種目同時出場届(TICで配布)を招集所に提出すること。なお、当該競技者でトラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後ただちにフィールド競技の競技場所へ移動し、担当競技役員に申し出る。また、フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前、当該競技役員にその旨を申し出ること。(TR4.3を確認するため)
 - ⑤リレーのオーダーについては、メンバー及びオーダーの変更の有無に関わらず、各ラウンドとも出場する該当の組のそれぞれの招集完了時刻の1時間前までにオーダー用紙(TICに準備)を招集所競技者係に提出すること。一度提出したオーダーについては変更できない。ただし、主催者が認めた医務員により、けが等により出場が困難と認められた場合は変更を認める場合がある。招集完了後の変更はいかなる場合でも認められない。また、招集は規定通りに受けること。
 - ⑥リレーについては、あらかじめエントリーしている選手から少なくとも2名が出走しなくてはならない。リレーのエントリー以外からリレー出場の場合は、オーダー用紙の「※欄の出場種目」と記載ページを記入すること。ただし、ジュニア種目からのエントリーはできない。
 - ⑦出場競技を欠場する場合は、招集開始時刻までに欠場届(TICで配布)を招集所に提出すること。
 - ⑧棒高跳の招集はすべて現地(ピット)にて行う。
 - ⑨招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を欠場したものとして処理する。
 - ⑩混成競技の実施日最初の種目については、招集所にて競技順序に示した招集時間で招集を行う。招集完了時刻に遅れた場合は、棄権とみなす。次種目以降については、混成係の指示に従い競技順序に示された招集完了時刻に混成選手控え場所に集合すること。競技開始時刻に遅れた場合は、棄権とみなす。

4 アスリートビブスについて

- (1) 出場者は主催者より配布されたアスリートビブスをそのままの大きさと胸部と背部につけること。ただし、競歩競技および混成競技の最終種目では、競技者係にて別に配布するアスリートビブスを胸部につけること。

- (2) トラック競技者は招集所で競技者係から渡されたレーンナンバーカードを右腰や後方につけること。
- (3) 跳躍競技の出場者は、その種目に限り胸部または背部のいずれかを除いてもよい。

5 競技について

- (1) 競技に参加する選手以外は、競技場内に立ち入らないこと。
- (2) トラック競技・フィールド競技・混成競技におけるレーン及び試技順についてはプログラム記載通りとする。
- (3) トラック競技の判定は、すべて写真判定装置（全自動電気計時 1/1000）を使用する。
- (4) トラック競技において、セパレートレーンを使用する種目については、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (5) 4×100mリレーの第 2・3・4 走者は、競技者係から渡された目印用テープのみを置くことができる。レース終了後は第 1・2・3 走者が自チームのテープを取り除くこと。
- (6) 4×400mリレーの第 3・4 走者は、競技役員の指示に従い前走者が 200m スタート地点を通過した順位で内側から並び待機する。その後に順位に変動があっても並び順を変えてはならない。なお、バトンを受け渡した後の走者は、後続の他チーム走者の走路を妨害しないように留意すること。
- (7) リレーに出場するチームは同一デザインのユニフォームで出場すること。形状の違うものについては、カラー等デザインが酷似している場合は認めるものとする。
- (8) スパイクシューズのピン使用は、トラック競技 9mm 以下、フィールド競技 12mm 以下とする。
- (9) シューズの靴底（ソール）の厚さについて（TR5 に準ずる）
 - a) シューズとは、スパイク、ランニングシューズを含むものである。
 - b) トラック競技について、800m 未満の競技（4×100m R, 4×400m R を含む）は 20 mm 以内、800m 以上の競技は 25mm 以内、ただし、競歩については 40mm 以内とする。
フィールド競技については、三段跳を除く種目は 20mm 以内、三段跳については 25mm 以内とする。
 - c) 靴底厚確認については、WA 承認以外の靴を使用する競技者は、シューズ測定係（招集所に設置）で、靴底計測等のチェックを行う。
 - d) ジュニアのフィールド競技については、日本陸連の示す移行措置を適用し、現行販売されているフィールド競技用靴（スパイク・スローイングシューズ）は、靴底厚確認のための計測は行わない。規格外のアップシューズ等は許可しない。ただし、記録については国内で通用する記録としての取り扱い（公認記録、国内上位大会参加資格記録、大会記録）となる。よってその記録は国際大会等での参加資格となる記録や U18/U20 日本記録としては認められない。（WA の規定に適合したシューズを使用した競技者は、その限りではない。）
- (10) 長距離・競歩競技については、気象の状況により給水を設けることがある。
- (11) 走高跳、棒高跳の練習及び競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。
ただし、気象条件等により変更することもある。
 - 一般男子走高跳 1m80 2m00 （練習）1m85 1m90 1m95 2m00（以降 3cm）
 - 一般女子走高跳 1m50 1m70 （練習）1m55 1m60 1m65 （以降 3cm）
 - 一般男子棒高跳 4m00 4m50 5m00 （練習）4m20 4m40 4m60 4m70 4m80 4m90 5m00（以降 5cm）
 - 一般女子棒高跳 2m60 3m10 3m60 （練習）2m80 3m00 3m20 3m30 3m40 3m50 3m60（以降 5cm）
 - Jr 男子走高跳 1m70 1m85 （練習）1m75 1m80 1m85 1m90 1m95 （以降 3cm）
 - Jr 女子走高跳 1m40 1m55 （練習）1m45 1m50 1m55 1m60 （以降 3cm）
- (12) 混成競技走高跳、棒高跳の練習及び競技中のバーの上げ方は、次のとおりとする。
 - 男子十種走高跳 1m50 1m80（練習）1m55 1m60 1m65 1m70 1m75 1m80 （以降 3cm）
 - 男子十種棒高跳 2m50 3m00 3m80（練習）2m60 2m70 2m80 2m90 3m00 3m10
3m20 3m30 3m40 （以降 5cm）
 - 女子七種走高跳 1m25 1m45（練習）1m30 1m35 1m40 1m45 （以降 3cm）
- (13) 走高跳以外の跳躍競技は、助走路の外側に主催者が準備したマーカーを 2 個まで設置することができる。走高跳は、各自でマーカー（粘着テープ、2 カ所以内）を助走路内に使用することができる。使用したマーカーは競技終了後、役員の指示があった後、各自で片付けること。
- (14) 男子三段跳の踏切板は砂場から 13m に設置する。女子三段跳については 10m に設置する。
- (15) サークルから行う投てき競技は、サークル直後あるいはサークルに接して目印用マークを各競技者 1 個まで置くことができる。
- (16) 投てき競技に出場する競技者は、練習場を含めて役員の指示に従い、事故防止に十分に注意すること。
- (17) フィールド競技に出場する競技者は、競技前に行う公式練習は競技役員の指示によって行う。
投擲競技においては、公式練習が 1 回のみになる場合がある。

(18) フィールド競技ジュニア種目の測定距離について、以下の記録に満たない記録は計測せず無効試技とする。

男子走幅跳	6m20	男子砲丸投	11m00
男子円盤投	33m00	男子やり投	45m00
女子砲丸投	9m00	女子円盤投	28m00

6 競技の抽選及び番組編成について

- (1) トラック種目における準決勝・決勝の組分け及びレーン順は、番組編成員によって行う。
- (2) タイムによる次のラウンドに進む競技者の決定について、最終枠に同記録があるときの処置は、写真判定主任が0.001秒単位の時間を判定して競技者を決定する。それでも決定できない時は抽選とする。
- (3) 大会を欠場する場合は、大会2日前までにチーム監督（コーチ）を通じて欠場届を提出すること。欠場者数によっては種目の番組を再編成する可能性もある。

7 結果発表と抗議について

- (1) 結果は大型スクリーン及びアナウンスのほかに、TIC 付近記録掲示板に掲示し、ホームページ上で速報を行う。
- (2) 発表された結果に対する抗議は、競技規則 TR7 に定められている時間内（同一日に次ラウンドが行われる場合には結果発表後 15 分以内、それ以外は 30 分以内）に、競技者自身または代理人が、TIC を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金（1 万円）を添え、担当総務員を通じて Jury に文書で申し出る。

8 競技用具について

- (1) 本競技会で使用する用器具は、棒高跳ポール以外、すべて主催者が用意したものを使用しなければならない。
- (2) 投擲の持ち込みを希望する場合は、競技開始 90 分前から 60 分前までに、「TIC」に申し出て指示を受け検査を受けること。なお、検査に合格した際は、一括借り上げとし、他の競技者も共有できるものとする。またその際、破損等があった場合も、主催者側は一切の責任を負わない。受け付けた投擲物については「預かり証」を発行し、競技終了後に TIC で「預かり証」を確認のうえ返却する。

※混成競技の選手で、個人のやりを使用する場合は、混成競技係に事前に連絡し、前の競技終了後やりを預け検査を行ってもらおうこと。

9 練習について

- (1) ウォーミングアップ及び練習は、補助競技場および雨天練習場で行うこと。
- (2) 練習会場及び練習時間については別表を参照のこと。
- (3) 練習場の使用については、役員（練習会場係）の指示に従い安全に留意すること。
- (4) 本競技場内における競技前の練習については、すべて競技役員の指示に従って行うこと。
- (5) 投てきの練習について
 - ①投てきの練習については、補助競技場で行うこと。
 - ②練習は事故防止のため、監督・コーチ等が必ず付き添い、役員（練習会場係）の指示に従うこと。
 - ③競技前の公式練習は、出場人数等の関係で1回のみとする場合がある。
- (6) 補助競技場
 - ①フィールド内は投擲の練習及び試合会場として使用するので、投擲練習および競技以外の競技者はフィールド内には立ち入らないこと。
 - ②ジョグ等をする場合は、トラック外側を使用する。
 - ③走路の逆走は禁止する。

10 表彰について

- (1) すべての競技者は、第4ゲート付近退場口から退場すること。また、各種目の表彰は第3位までとする。第3位までの入賞者は決勝終了後、誘導係の指示に従って表彰者控所で待機すること。
- (2) 優秀選手賞については、昨年度日本陸連100傑を参考に、男子1名、女子1名を決定し、表彰する。

11 個人情報の取り扱いに関して

- (1) 本大会に関して寄せられた個人情報は、本大会の目的以外には使用しない。
- (2) 本大会が認めた報道機関により撮影された写真や動画が、新聞・雑誌・大会報告書・ホームページ等で公開される

ことがある。

(3) 本大会が認めた報道機関が撮影した映像が、中継・録画放送されることがある。

12 その他

(1) 各競技場等の開門時間は午前7時30分、閉門時間は競技終了から30分後を目安とする。

(2) 選手控え場所の設置については、別表の通りとする。また、消火設備・トイレ出入口前等には休憩待機所を設置しないこと。

(3) 休憩待機所は譲り合って使用し、必要以上の広さを確保専有しないこと。また、目印等には養生テープ以外は使用しないこと。

(4) 横断幕については1チーム1枚とし、部旗・のぼりも同様とする。掲示はメイン競技場バックスタンドに括り付けること。その際、非常灯を覆うような掲示は禁止する。

(5) フィールド競技の助言については、コーチングエリアで行うこと。

(6) 試技の確認などでビデオを見せる場合は、コーチングエリアからのみ認める。手渡し、競技者が視聴のため競技区域から離脱する行為は認めない。

(7) 棒高跳用ポールの返送は、8月21日（日）午後2時頃までにTICに指定の送り状を貼り付けて持参すること。

(8) 弁当の引渡し及び回収は(株)TEAMの指示により行う。

(9) ゴミ類は、各自で責任をもって持ち帰ること。

(10) 撮影は全てスタンドから行うこと。ただし、次の場所はスタンドであっても撮影はできない。

①フィニッシュから第1ゲート付近までのスタンド

②短距離種目（スターティングブロック使用種目）の後方からの撮影

③係が巡回し、撮影した画像を確認することがある。問題あると判断した場合は、その場で削除をお願いすることがある。